

平 27.8.20
総 16-2

電通総研 HUMAN STUDIES

高齢者のライフスタイルと消費・働き方

電通総研 研究主幹 斉藤徹

高齢者はどのような人生を辿ってきたか

1945生まれ(現在70歳)のライフスタイル ①

年	年齢	ライフステージ		経済成長率 (実質)	社会背景
		男性	女性		
1945	0歳	誕生			
1946	1歳	↓		-	食糧難続く。闇市がはんならん
1947	2歳	↓		8.4	集団見合
1948	3歳	↓		1.3	東京ブギウギ
1949	4歳	↓		2.2	ドッジライン、インフレ収束
1950	5歳	↓		1.1	特需景気
1951	6歳	↓		1.3	対日講和条約、日米安全保障条約
1952	7歳	↓		11.2	
1953	8歳	↓		6.2	テレビ本放送開始
1954	9歳	↓		5.9	
1955	10歳	↓		8.8	白黒テレビ・冷蔵庫・洗濯機が「三種の神器」に
1956	11歳	↓		7.5	「太陽の季節」
1957	12歳	↓		6.5	「主婦の店ダイエー」が大阪に開店
1958	13歳	↓		7.3	東京タワー開業
1959	14歳	↓		9.3	皇太子ご結婚
1960	15歳	↓		13.3	インスタント食品登場
1961	16歳	↓		11.9	「上を向いて歩こう」
1962	17歳	↓		8.6	東京人口1000万人突破
1963	18歳	↓		8.8	日米初テレビ宇宙中継
1964	19歳	↓		11.2	東海道新幹線開業。東京オリンピック。アイビールック流行
1965	20歳	↓		5.7	マイホーム、モーレツ社員
1966	21歳	↓		10.2	ビートルズ来日
1967	22歳	↓		11.1	核家族
1968	23歳	↓		11.9	国民総生産(GNP)世界第2位に
1969	24歳	↓		12.0	エコノミック・アニマル
1970	25歳	↓		10.3	大阪万博 ウーマン・リブ
1971	26歳	↓		4.4	マクドナルド、銀座に1号店、アンノン族
1972	27歳	↓		8.4	列島改造論
1973	28歳	↓		8.0	第1次オイルショック。物不足と狂乱物価、省エネ
1974	29歳	↓		-1.2	便乗値上げ、ゼロ成長
1975	30歳	↓		3.1	複合汚染
1976	31歳	↓		4.0	ロッキード疑獄事件、田中角栄前首相逮捕
1977	32歳	↓		4.4	連合赤軍による日航機ハイジャック事件
1978	33歳	↓		5.3	第2次オイルショック、サラ金
1979	34歳	↓		5.5	ウォークマン発売
1980	35歳	↓		2.8	省エネ商品
1981	36歳	↓		2.9	窓ぎわのトットちゃん

高校卒業・就職／大学進学(大学進学率男性23.8%、女性)

短大卒業・就職

大学卒業・就職

女性・結婚

男性・結婚

女性・長子誕生

男性・長子誕生

女性・末子誕生

男性・末子誕生

高齢者はどのような人生を辿ってきたか

1945年生まれ(現在70歳)のライフスタイル ②

年	年齢	ライフステージ		経済成長率 (実質)	社会背景
		男性	女性		
1982	37歳			2.8	おいしい生活
1983	38歳		女性・末子小学入学	1.6	ファミコン発売
1984	39歳			3.1	土曜日深夜番組
1985	40歳	男性・末子小学入学		5.1	新人類
1986	41歳			3.0	男女雇用機会均等法施行 亭主元気で留守がいい
1987	42歳			3.8	NTT新規上場
1988	43歳			6.8	「過労死110番」初めて開設 フリーター
1989	44歳			5.3	消費税が税率3%でスタート。株価3万8915円 セクハラ
1990	45歳			5.2	景気拡大「岩戸景気」を抜く
1991	46歳			3.4	バブルの崩壊、湾岸戦争、 地球にやさしい
1992	47歳			1.0	共働き世帯が専業主婦世帯を上回る。 カード破産
1993	48歳			0.2	自民党政権崩壊、細川連立内閣発足
1994	49歳			1.1	円高進行、輸入商品注目
1995	50歳			2.0	阪神・淡路大震災
1996	51歳			2.7	橋本内閣発足
1997	52歳		女性・末子学卒	1.6	消費税5%に
1998	53歳			-2.0	景気後退、小渕内閣
1999	54歳	男性・末子学卒		-0.1	パラサイトシングル、癒し
2000	55歳			2.9	携帯電話の加入者数が専業主婦世帯を上回る
2001	56歳			0.2	JR東日本がSuica導入
2002	57歳			-0.3	ハリー・ポッター
2003	58歳			1.4	スローライフ
2004	59歳			2.7	アテネ五輪
2005	60歳	男性・60歳定年(再雇用)	女性・長男結婚	2.7	インターネットの人口普及率70%突破、 おひとりさま
2006	61歳			2.2	第1次安倍内閣発足
2007	62歳	男性・長男結婚	女性・初孫誕生	2.1	ネットカフェ難民
2008	63歳		夫(男性)・引退	-1.2	リーマンショック
2009	64歳	男性・初孫誕生		-6.3	民主党圧勝、鳩山連立内閣発足
2010	65歳	男性・引退		3.9	スマートフォン、3D映画、電子書籍端末、タブレット
2011	66歳			-0.7	東日本大震災
2012	67歳			2.0	復興庁発足
2013	68歳			1.5	アベノミクス
2014	69歳			0.0	消費税8%
2015	70歳			-	

健康寿命(男性70.42歳、女性73.62歳)

平均余命(男性15.28歳、女性19.59歳)

高齢者はどのような日常を送っているか

●高齢者の日常生活事例 ①(デプス・インタビュー)

対象者:A氏(65才)男性 職歴 :役所勤務(定年前)

【家族・仕事】

- ・家族は、妻と次女(34才)。長女は嫁いでいる。次女は仕事をしている。長女は北海道に住んでいる。孫はいない。
- ・去年の3月まで仕事をしていたが、今はリタイアしている。昨年まで役所に勤務していて、60才退職。
65才まで非常勤で消防署に勤務した。今は派遣会社に登録している。
シルバーセンターの仕事もしていて短期的な仕事についたりしている。

【一日の過ごし方】

- ・体を動かすのが好きなので散歩に行く。1時間以上はしようと思っている。出来れば毎日、一人で散歩する。
1万歩を目標にしているが、それ以外には近くの図書館に行き、本を読んだり、犬の散歩に行く。
- ・家の中では、パソコンをいじっている。ワードやエクセルでいろいろしている。好きなので資料を作ったりしている。

【趣味】

- ・カラオケをしている。区民センターの中に、高齢者の福祉のための集会場があり、そこで無料でカラオケが出来る。
利用券があれば誰でもいつでも行けるので、週に2~3回は行く。12時から3時頃までカラオケをする。

【家族のコミュニケーション】

- ・夕飯は一緒に食べる。妻も娘も一緒に夕飯を食べるので、家族はだいたい何をしているか知っている。

【1ヶ月のお小遣い】

- ・6万か7万くらい。一番多いのは、病院も通院していて自分で払っている。それも含めて7万円。
自分のものを買うのも含めて7万円。
- ・自分の洋服とか、食料品も買っている。主なものは妻が買い、自分が食べたいものや、子供に食べさせたいものは自分で買う。ケーキを買ってしまう。スイーツは買ってしまう。

高齢者はどのような日常を送っているか

●高齢者の日常生活事例 ②(デプス・インタビュー)

対象者: B氏(74才)男性 職歴 : 一部上場企業勤務(定年前)

【家族・仕事】

- ・妻、娘夫婦と孫2人と同居。中1と小学3年生。娘の婿は商社なので帰りは遅いし、一緒に何かすることはまずない。娘も航空会社なのでほとんど家にいない。孫は妻が面倒を見ている。
- ・昭和33年に入社して、46年会社で勤めた。今は派遣社員で基本的に週3回。妻は仕事はしていない。孫の世話で忙しい。

【一日の過ごし方・趣味】

- ・今はテニスばかりしている。今は週2日。4時間から6時間。会社のコートや都のコートを使っている。
- ・テニスがない日はテニスの座学をしている。うちで見たり、食事に出たりし専門誌を読んでいる。
- ・今はテニス以外の趣味はない。過去はスキーもやっていたし、ゴルフもやっていたが、時間もお金もかかるし、まず体がもたないのでテニスに絞った。なかなかゴルフを諦められなくて、まずカバンを捨てて、その後やっとクラブを捨てた。

【家族のコミュニケーション】

- ・あまりない。バラバラ。娘家族は、忙しくて全然時間が違う。婿ともあまり顔を合わさない。妻は電話が多い。孫とは毎日いるが、一緒に風呂に入ったりする。

【1ヶ月のお小遣い】

- ・自分で使えるのは派遣の分だけなので10万はない。それ以外は妻に渡す。
- ・使い道は、テニスの用具。ウェア、靴を買う。ラケットのガットを張りなおすとか。表に出て外食することも多い。仕事やテニスで飲む機会もある。通常は外食が多い。

高齢者はどのような日常を送っているか

●高齢者の日常生活事例 ③(デプス・インタビュー)

対象者:D氏(71才)女性 職歴 :インテリアコーディネーター(定年前)

【家族・仕事】

- ・一人暮らし。猫が1匹いる。娘が同じマンションの別の階に住んでいて、中学1年の女の子の孫がいる。娘達とは週に2回くらいご飯を食べる。息子は千葉に住んでいて息子の家族にはなかなか会えない。
- ・仕事は、25年間インテリアコーディネーターをしていたがいまは無職。

【一日の過ごし方・趣味】

- ・だいたい朝はのんびり。お腹が空かないので、朝起きてお茶を飲みながら、朝食が9時。お昼前後に、週に4日くらいはフィットネスに2時間、長くて4時間いる。3時か4時に家に帰り昼食。その後インターネットとかパソコンをして、7時頃から猫と一緒に赤ワインを飲みながら、ちょっと作ったものを摘まむ。
- ・美術館が好き。上野の博物館が古いものが好きなのでよく行く。サントリー美術館も好き。一人で行く。
- ・他には陶芸を区のコミュニティ会館で週に1回している。また、図書館で借りて本を読んでいる。

【家族のコミュニケーション】

- ・娘とは、なるべくサバサバと付き合いたいと思っている。出来るだけ頼らないでいきたいと思う。
- ・娘、孫とは、外食には行く。私がスポンサーなので「何を食べに行かない」と誘って3人で食事に行く。

【1ヶ月のお小遣い】

- ・生活費がどこまでで、どこまでがお小遣いかが分からない。趣味的に生きているので、3万円行くかどうかじゃないでしょうか。もっと少ないかもしれない。ワインとか、それにあう酒肴を見たとかに使う。
- ・洋服は、買いに行くということではなくて、買い物に行った時にデザインが私らしいと思うと買う。

近年の高齢者変化ポイント ①運動能力の向上

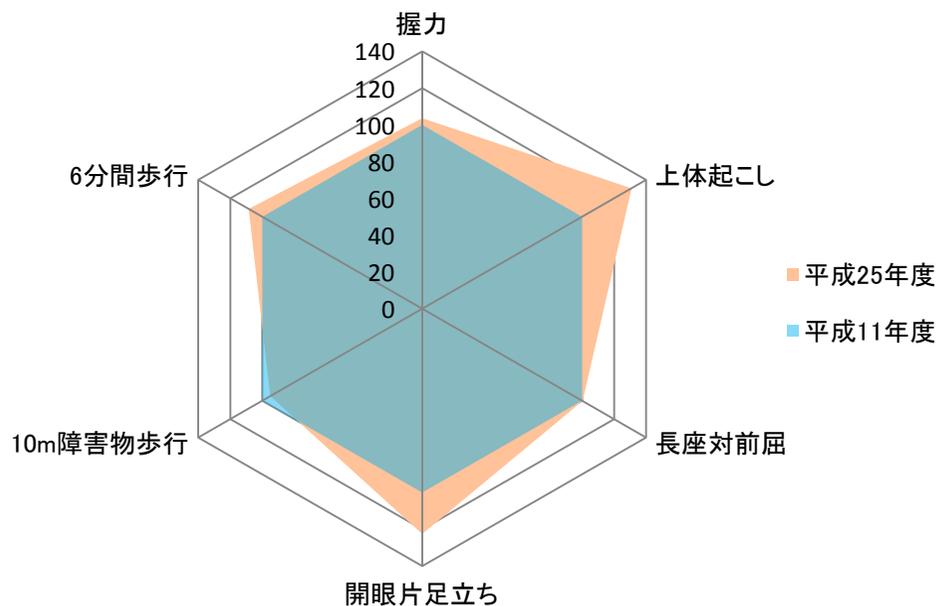
近年の高齢者の運動能力は、総じて向上。

文部科学省の「体力・運動能力調査」で、この10～15年の高齢者の運動能力の変化を見ると、「握力」はさほどの変化は見られないものの、「上体おこし」「開目片足立ち」「10m障害物歩行」「6分間歩行」などの項目では運動能力向上が伺える。

電通調査によっても多彩なスポーツに参加する高齢者の姿が明らかに。

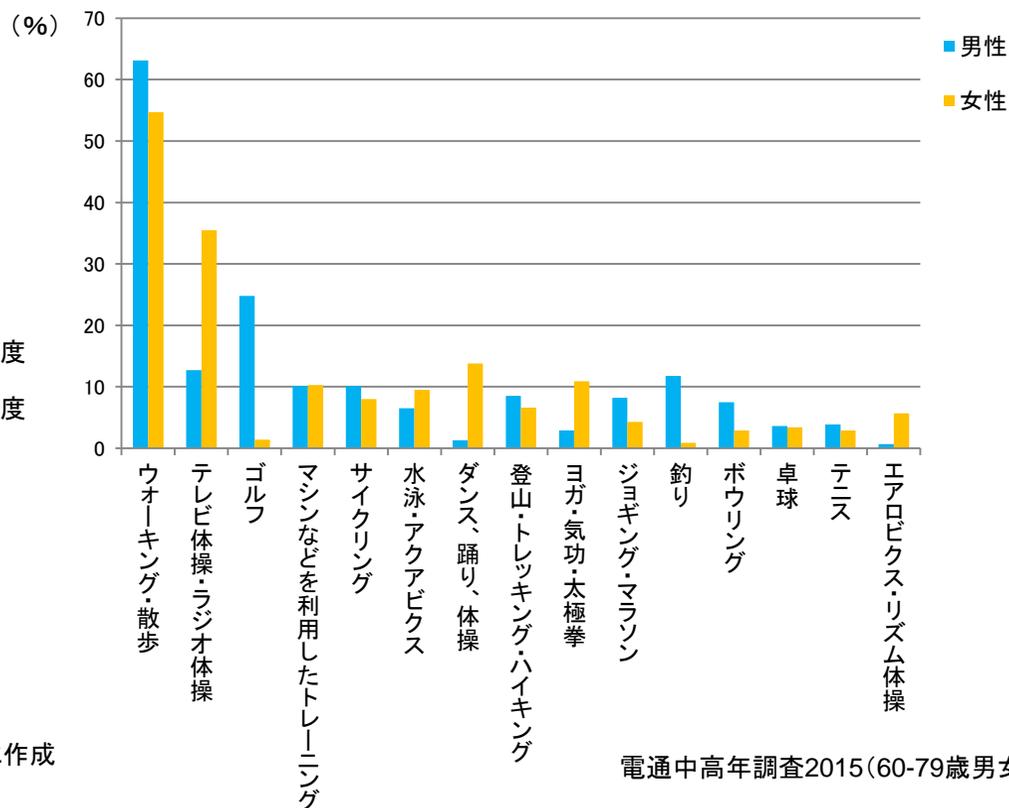
●文科省「体力・運動能力調査」(70~74歳・男性)

※平成11年データを100とした場合



文部科学省「体力・運動能力調査」を元に作成

●高齢者の参加スポーツ

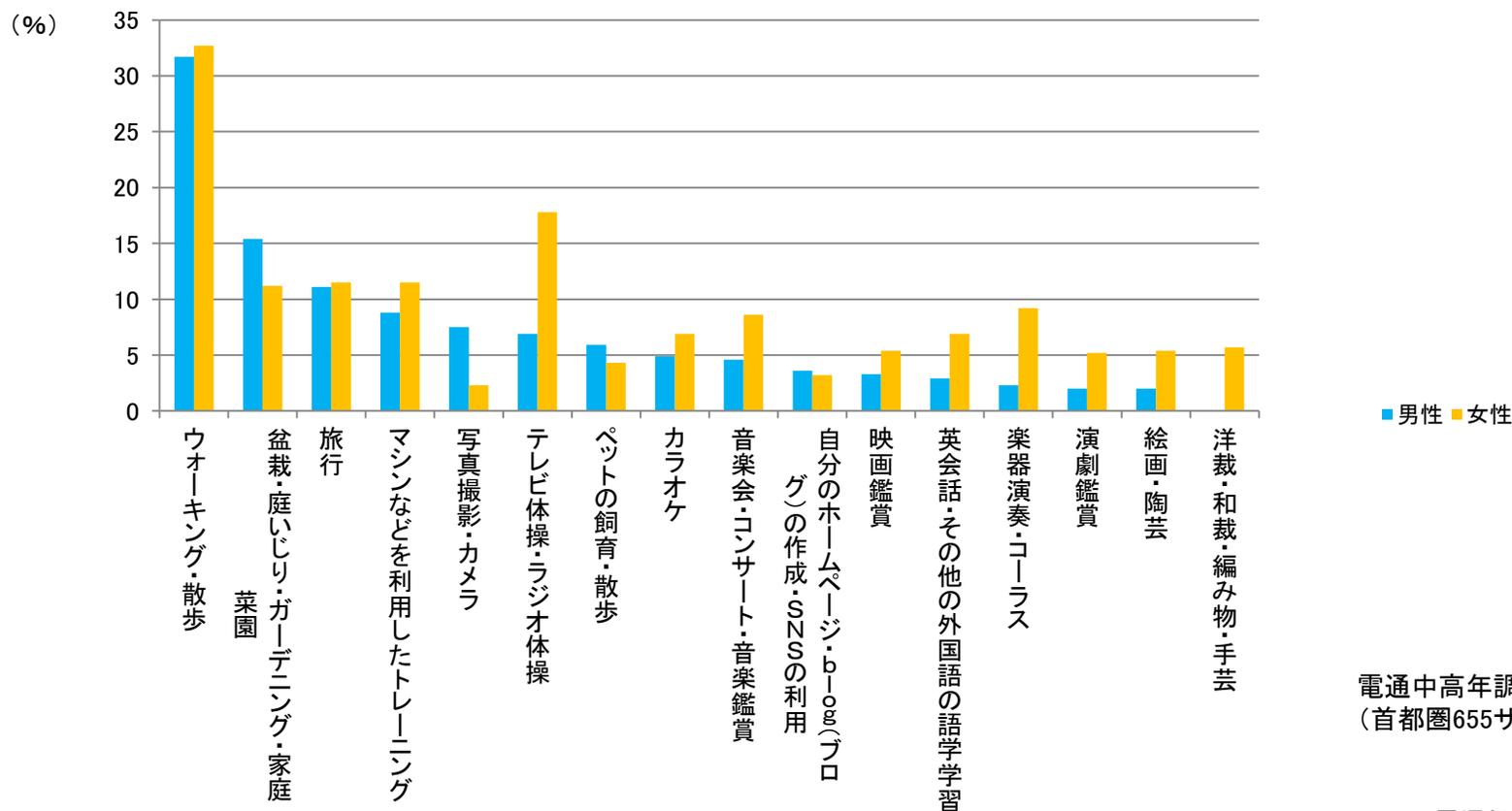


電通中高年調査2015(60-79歳男女)

近年の高齢者変化ポイント ②好奇心の多様化

戦後生まれ世代高齢者の増加で、多様な趣味を持つ高齢者も増加。
趣味系では、「ガーデニング」「旅行」「写真」など、さまざまな種類に参加している状況が伺える。運動系では「ウォーキング・散歩」や「テレビ体操・ラジオ体操」「マシントレーニング」など、高い負荷を必要としない軽い有酸素系トレーニングへの参加率が高い。

●50歳以降に新たに始めた趣味・スポーツ

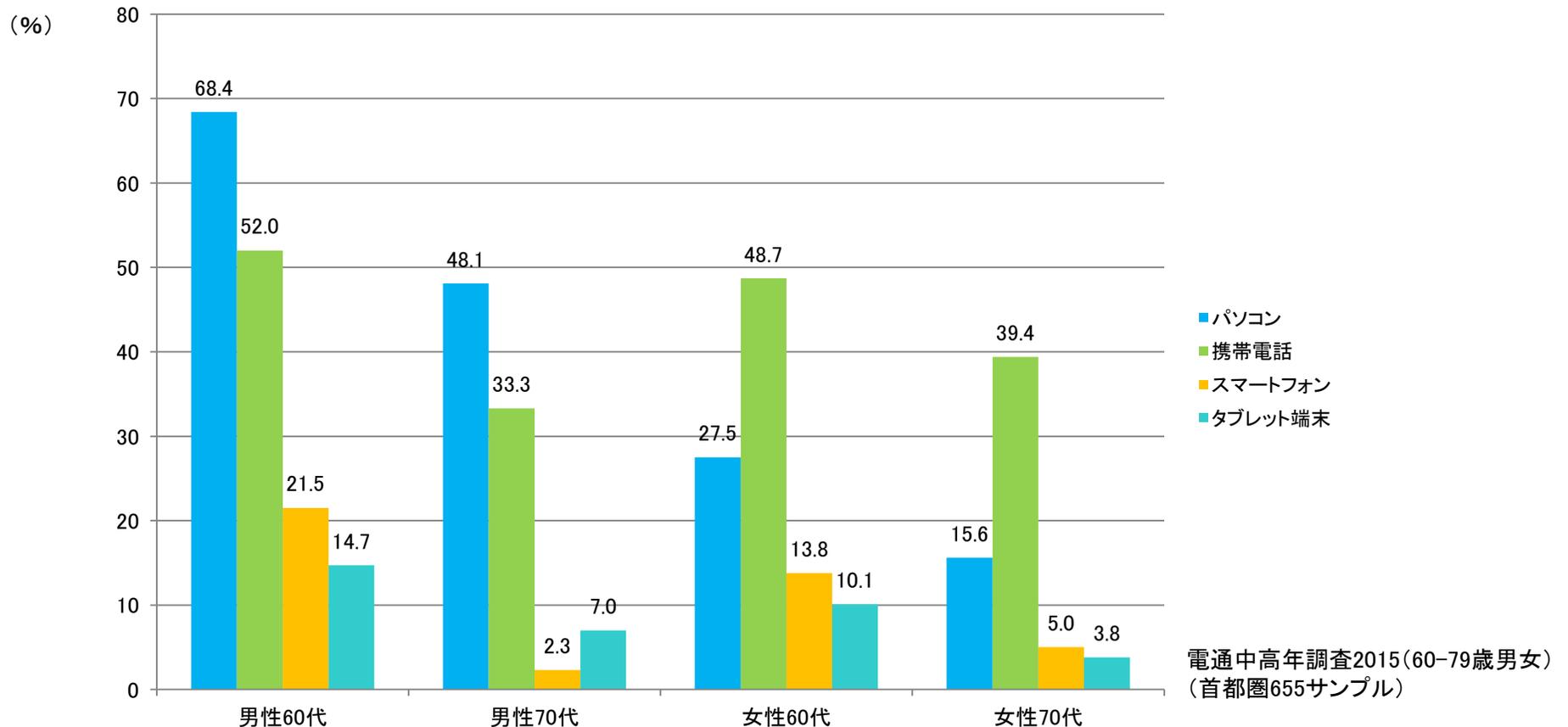


電通中高年調査2015(60-79歳男女)
(首都圏655サンプル)

近年の高齢者変化ポイント ③デジタルシニアの増加

男性は、60代・70代ともにPC中心に使いこなせる人が高い。女性は携帯電話中心。スマホ、タブレットの利用率はまだ低い。

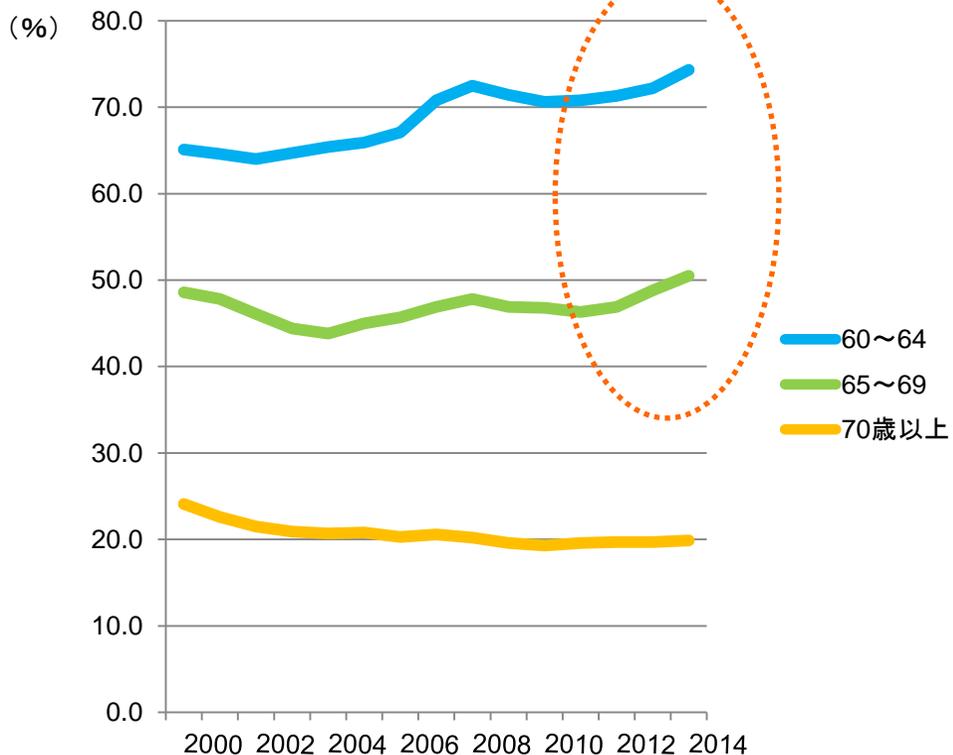
●高齢者デジタル端末の利用状況(「問題なく使いこなせる」、「ほぼ問題なく使いこなせる」の計)



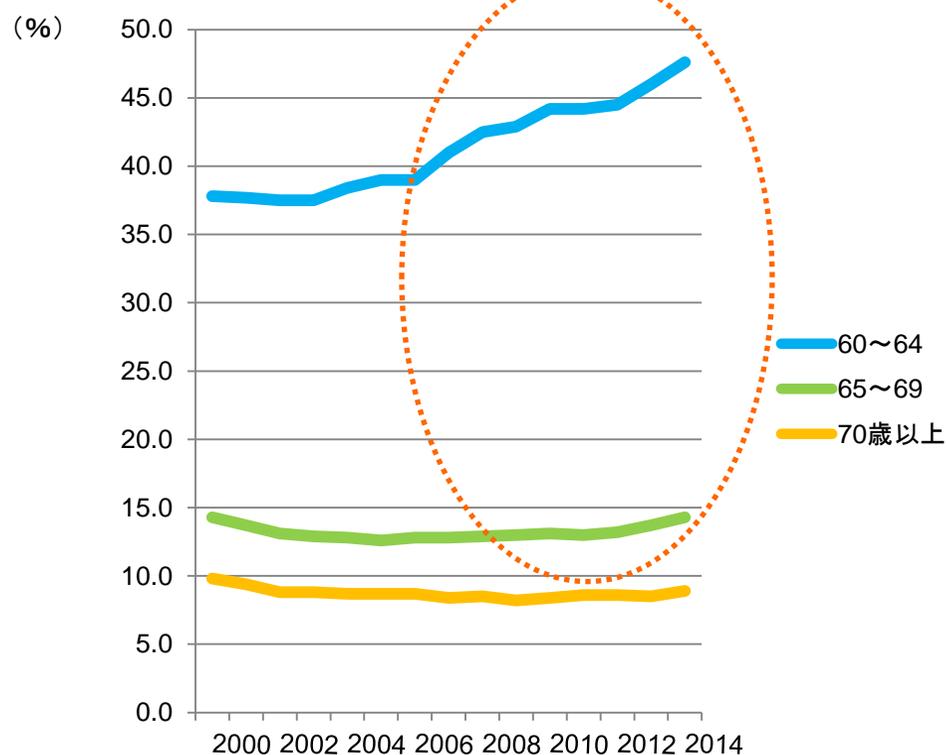
近年の高齢者変化ポイント ④働き続ける高齢者

2006年度「高年齢者雇用安定法」施行の影響もあり、60歳定年を過ぎても、再雇用などで働き続ける高齢者が増加している。
近年では、60-64歳女性就業率の上昇が目立つ。

●男性就業率の変化



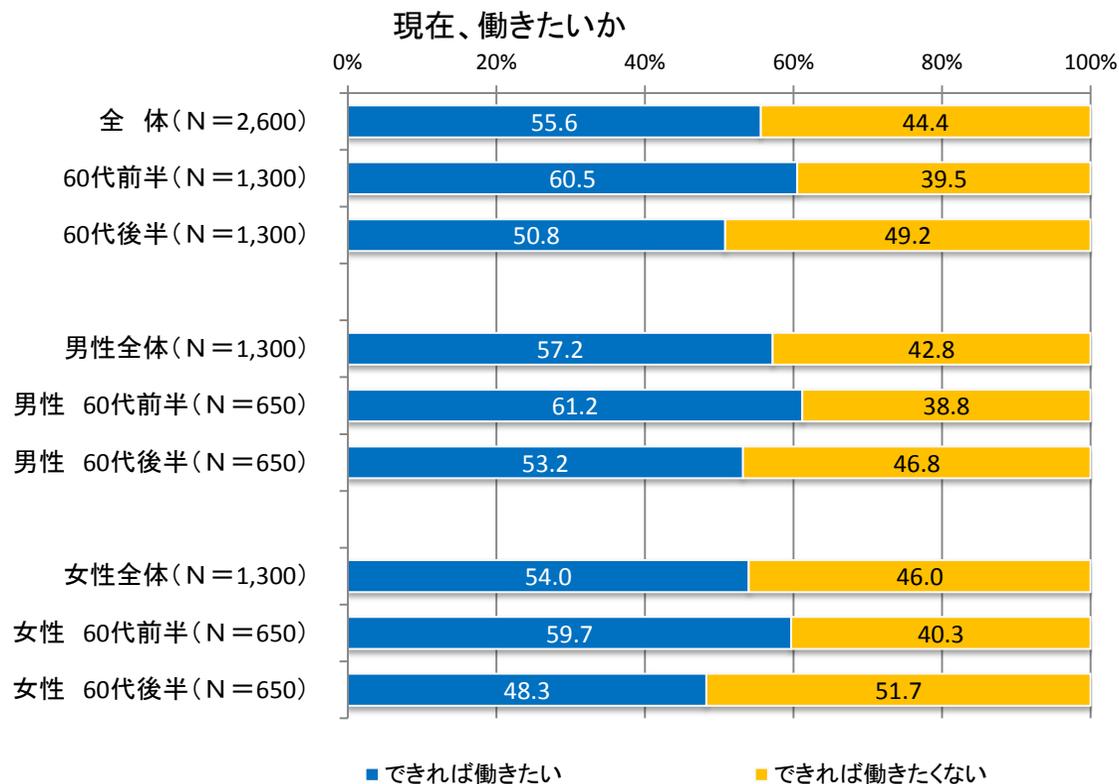
●女性就業率の変化



厚生労働省「労働力調査」

60代前半男女の約6割、60代後半男女の約5割が「働きたい」と考えている

男性の57.2%、女性の54.0%が「現在、働きたい」と思っている。
性年代別にみると、男女とも60代前半は「働きたい」が約6割。
60代後半になると「働きたい」人が減少し、「働きたくない」人が増加する。

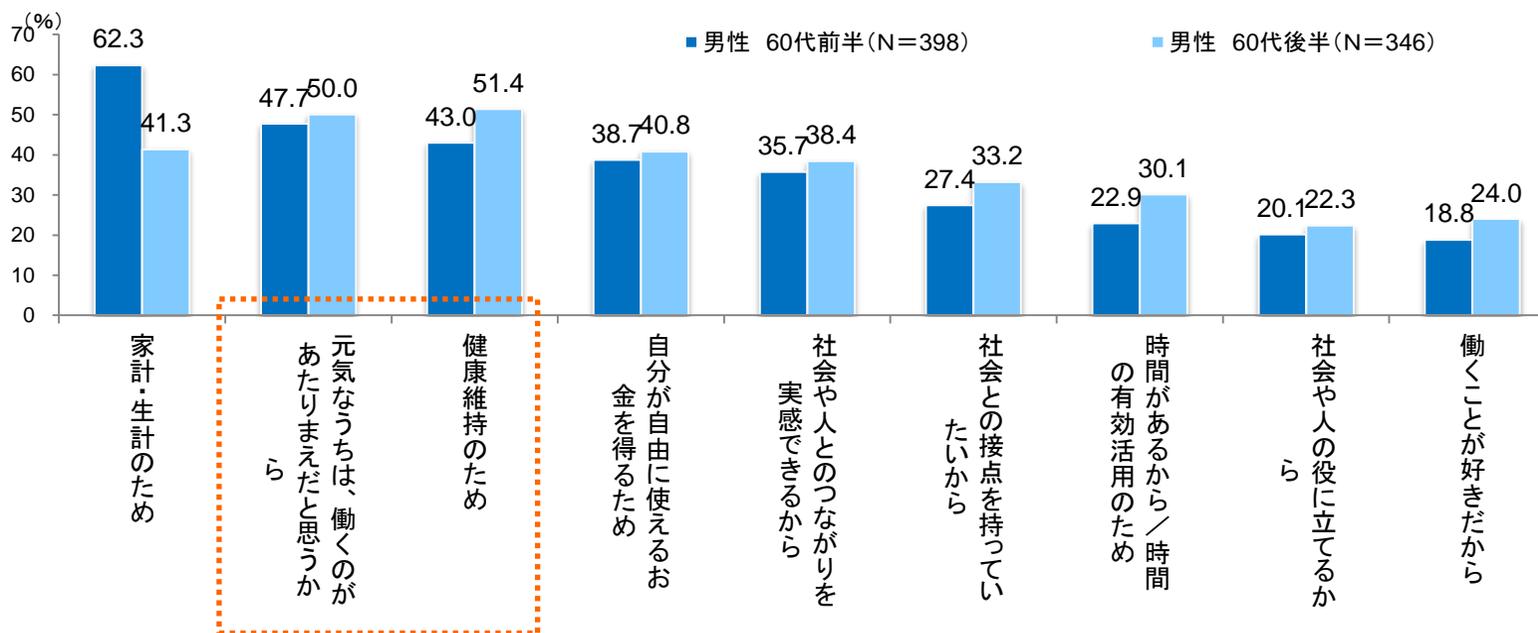


出典：電通総研「シニア×働く」調査(2015年3月実施、50代後半に働いていた60代男女 2,600名)

働きたい理由 <男性>

男性60代前半は「家計・生計のため」が62.3%と最多。以下、「元気なうちは働くのが当たり前だから」(47.7%)、「健康維持のため」(43.0%)。60代後半になると「健康維持のため」、「元気なうちは働くのが当たり前だから」が増加。男性60代前半は「お金」のため、60代後半は「健康」のために働きたいと思っている。

働きたい理由(男性)

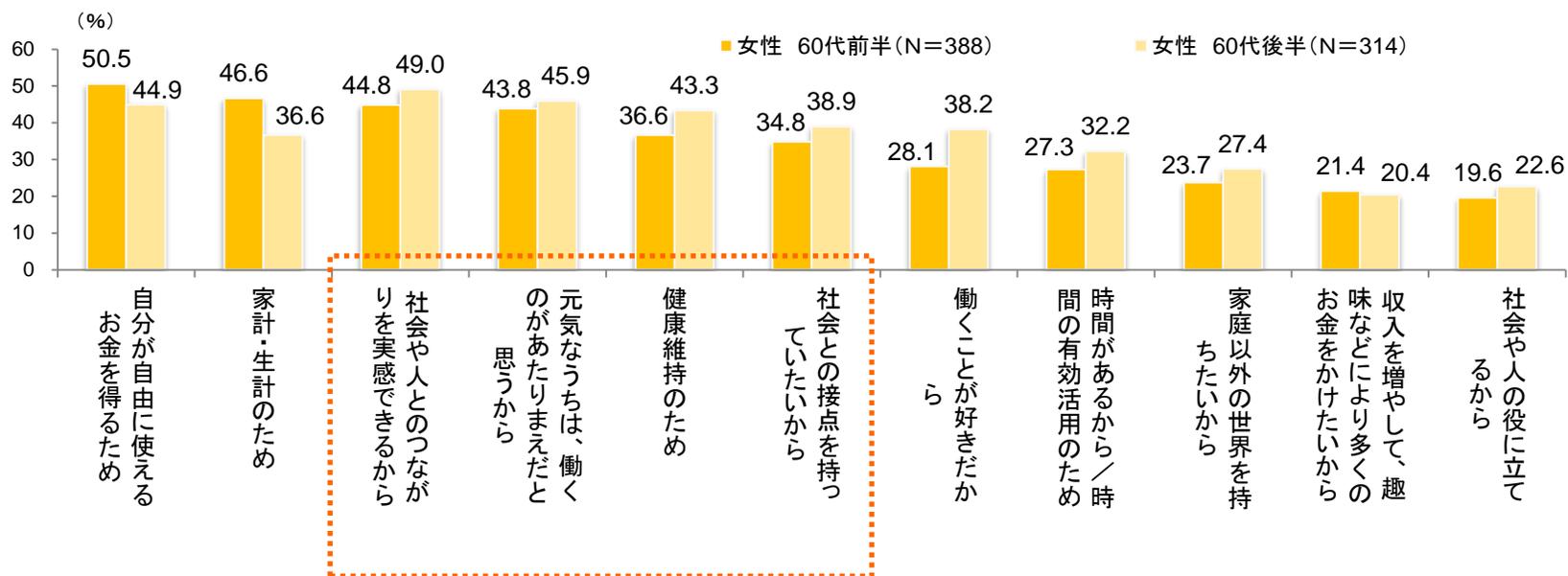


出典: 電通総研「シニア×働く」調査(2015年3月実施、50代後半に働いていた60代男女 2,600名)

働きたい理由 <女性>

女性は、60代前半は「自由になるお金を得るため」(50.5%)が最も多く、「家計・生計のため」(46.6%)が続く。60代前半は女性も男性同様「お金」のために働きたいと思っている。60代後半になると、「社会や人とのつながりが実感できるから」(49.0%)、「健康維持のため」(43.3%)、「働くことが好きだから」(38.2%)が増加する。

働きたい理由(女性)



出典: 電通総研「シニア×働く」調査(2015年3月実施、50代後半に働いていた60代男女 2,600名)

高齢者の所得・資産の特徴

平均値ベースで他世代と比較すれば、高齢者は比較的裕福であるが、高齢者世帯層内で見ると、所得・資産ともに大きな格差が存在する。

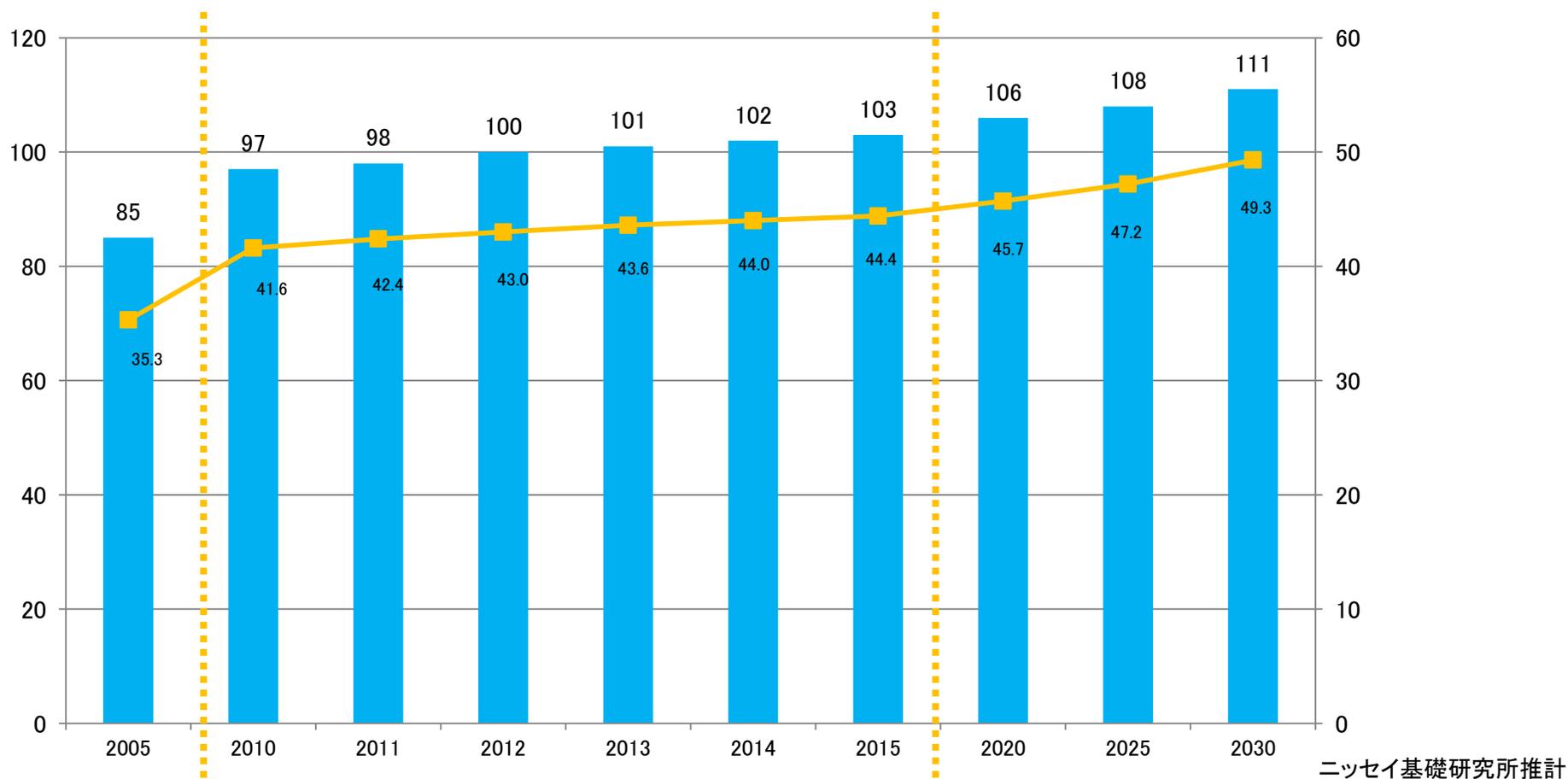
①高い所得格差と資産格差

②生涯にわたる所得・資産格差が 高齢期におけるQOL (Quality of Life)を規定

高齢者市場の見込み

60歳以上消費総額は100兆円を越す。今後も毎年1兆円増加し続ける。

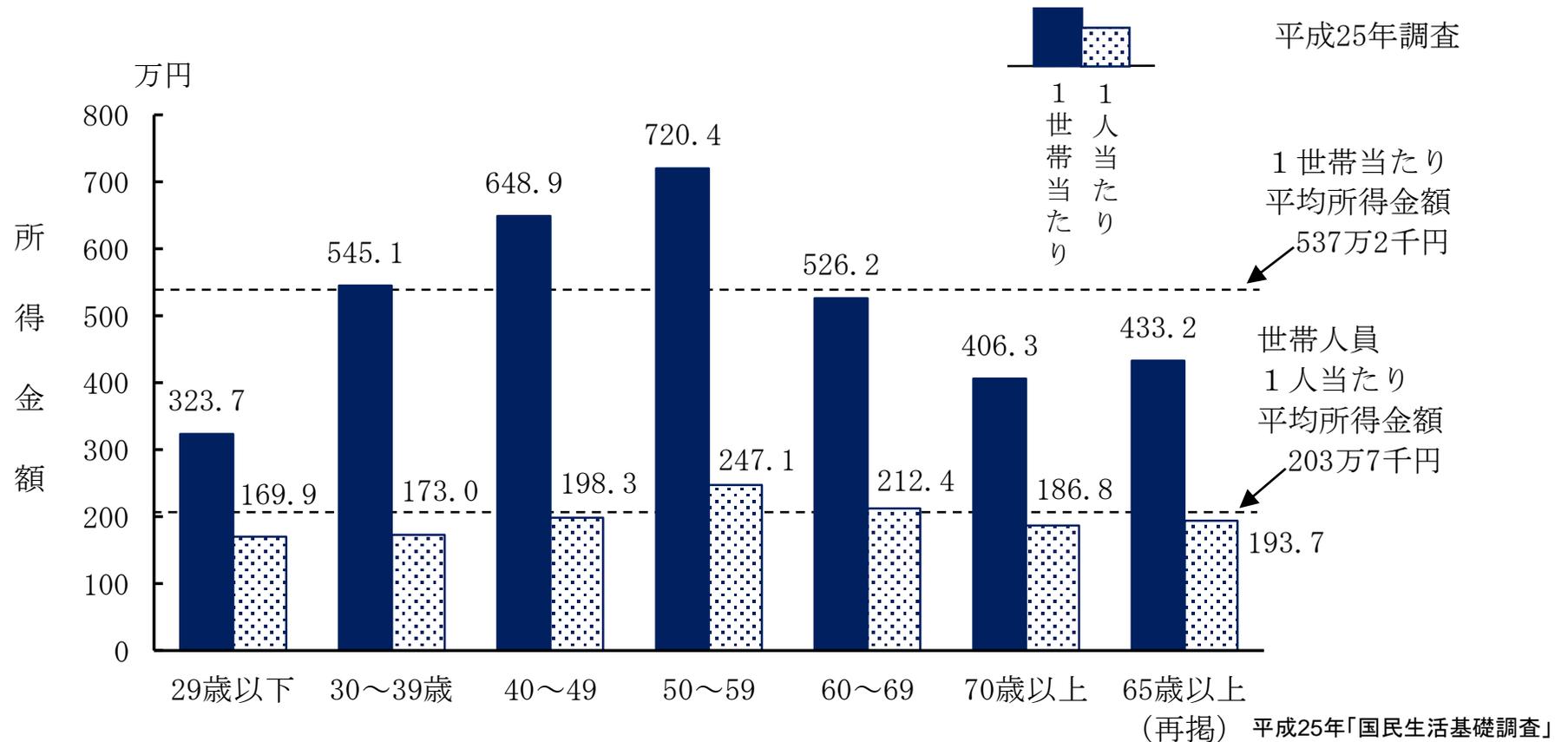
●60歳以上消費額の推計と家計消費市場全体に占める割合



年齢別世帯当たり平均所得金額

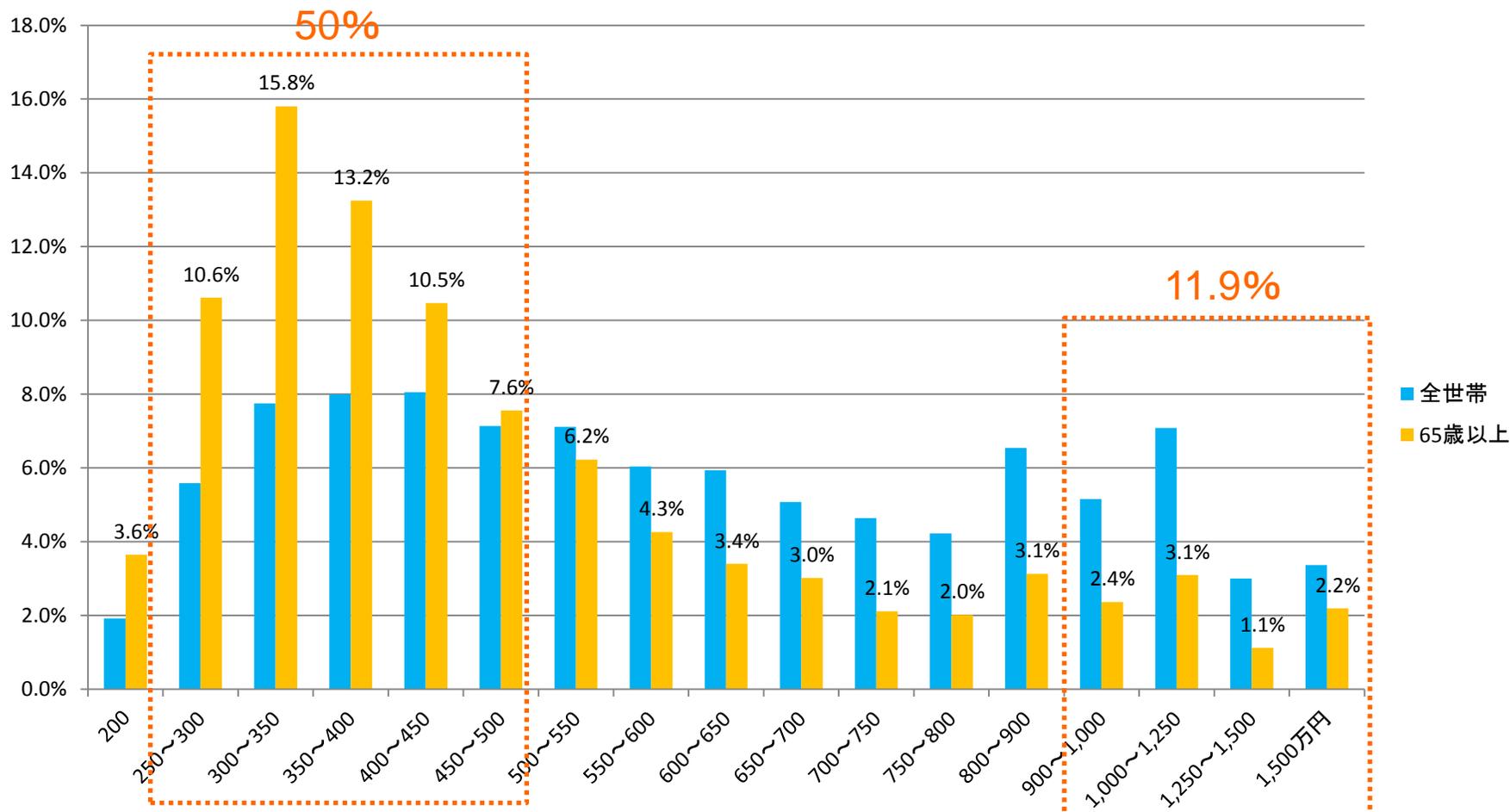
60~69歳の世帯当たり平均所得は562万(全体平均並み)

70~79歳は406万円と下がるが、一人あたりでは全体平均をやや下回る程度。



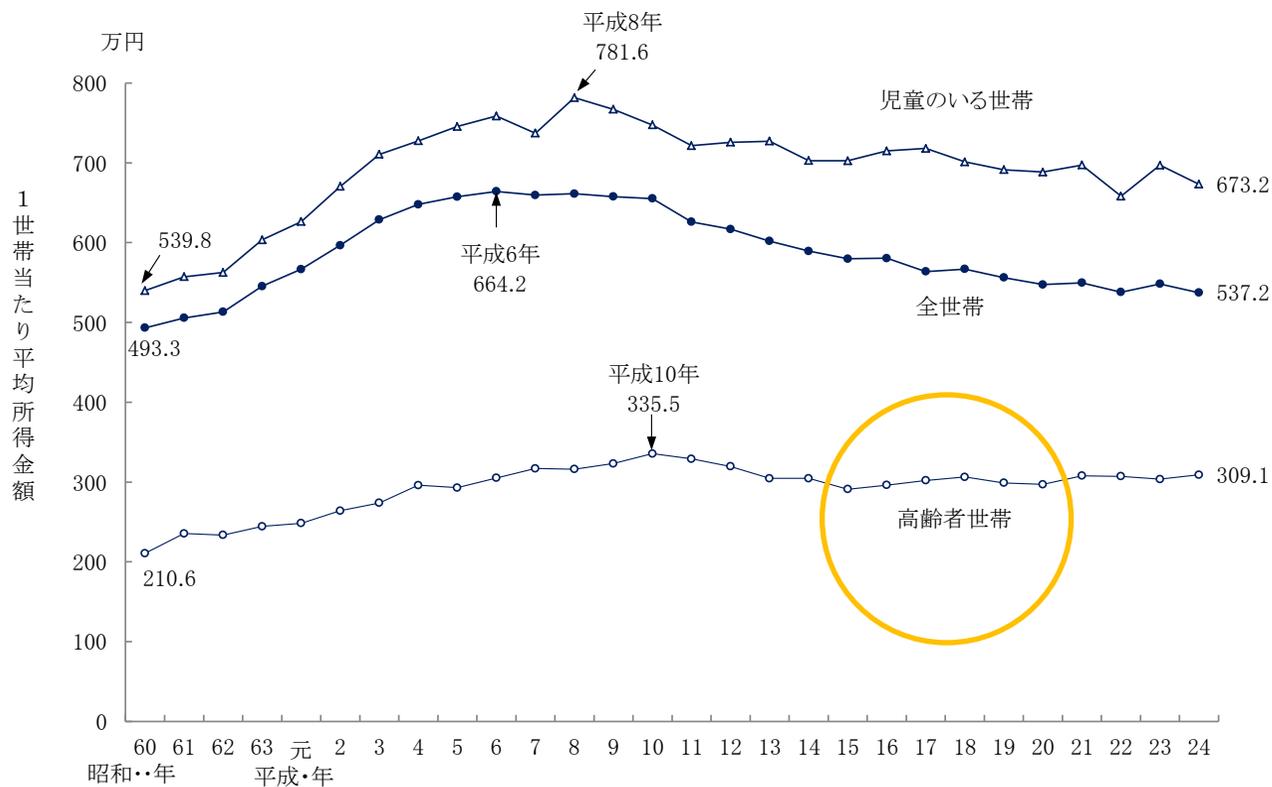
年間収入階級別世帯分布(2人以上世帯)

65歳以上年間収入では300～350万が最大値。250～500万層が全体の約半数
一方、900万円以上の層も約1割程度存在する。



1世帯当たり平均所得金額の年次推移

年金が所得の中心であるため、景気の影響とは連動しない。

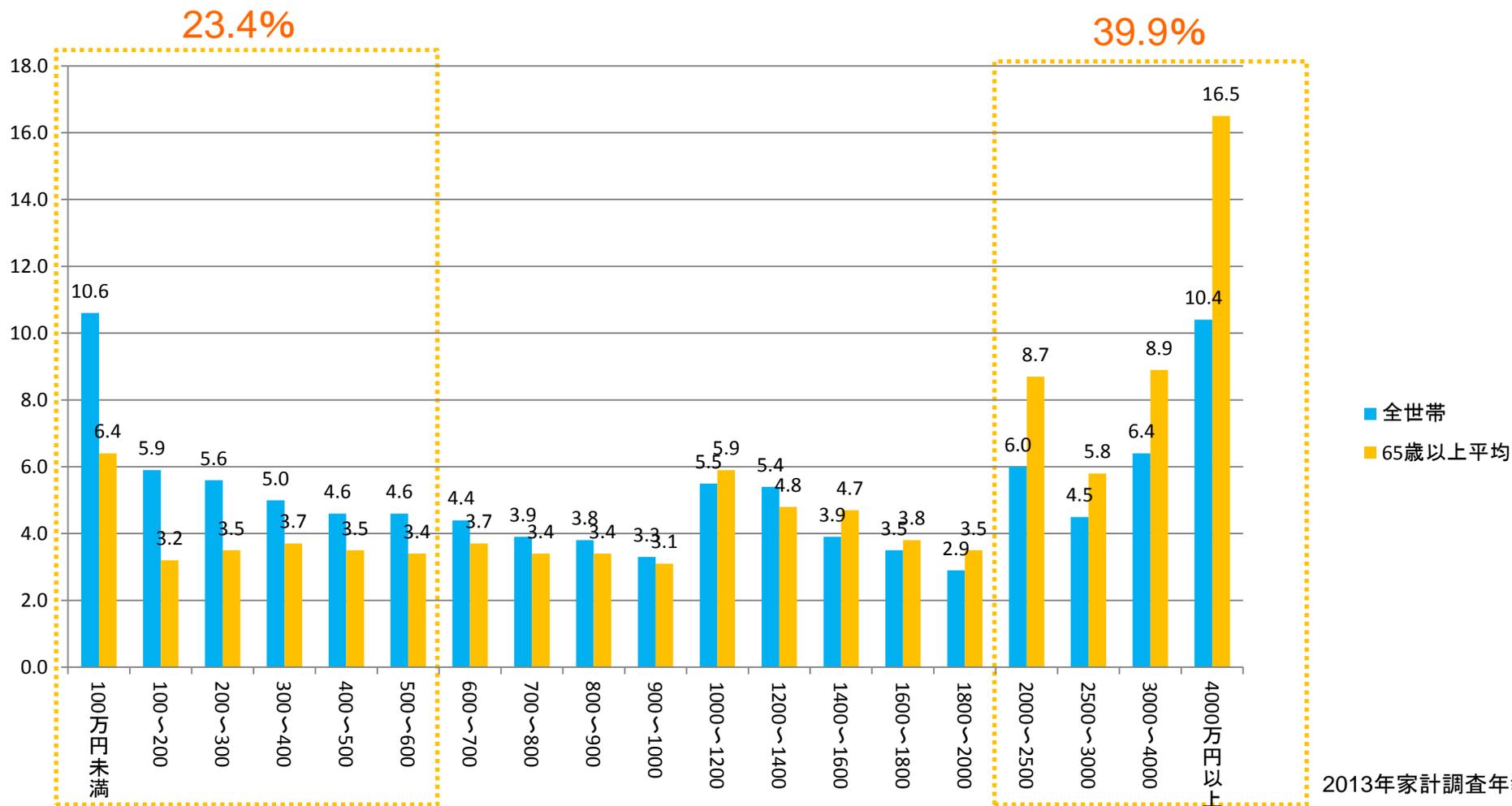


- 注：1) 平成6年の数値は、兵庫県を除いたものである。
2) 平成22年の数値は、岩手県、宮城県及び福島県を除いたものである。
3) 平成23年の数値は、福島県を除いたものである。

国民生活基礎調査

貯蓄現在高階級別世帯分布

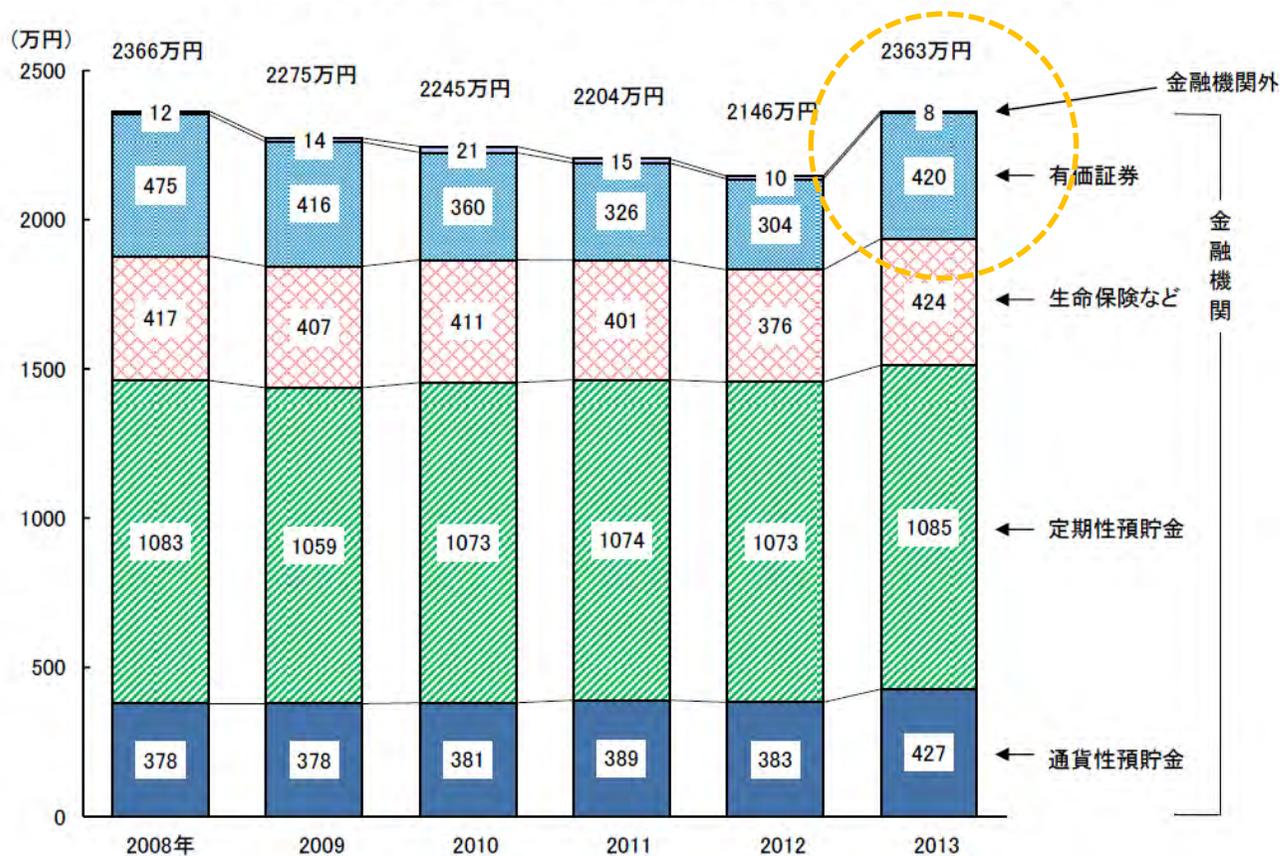
貯蓄高は持つもの、持たざるものに大きく分かれる。
2000万円以上が約4割いる一方で、600万円以下も2割強いる。



種類別貯蓄現在高の推移

有価証券中心に資産減少傾向にあったが、アベノミクス効果により増加傾向。

高齢無職世帯の貯蓄の種類別貯蓄現在高の推移（二人以上の世帯）

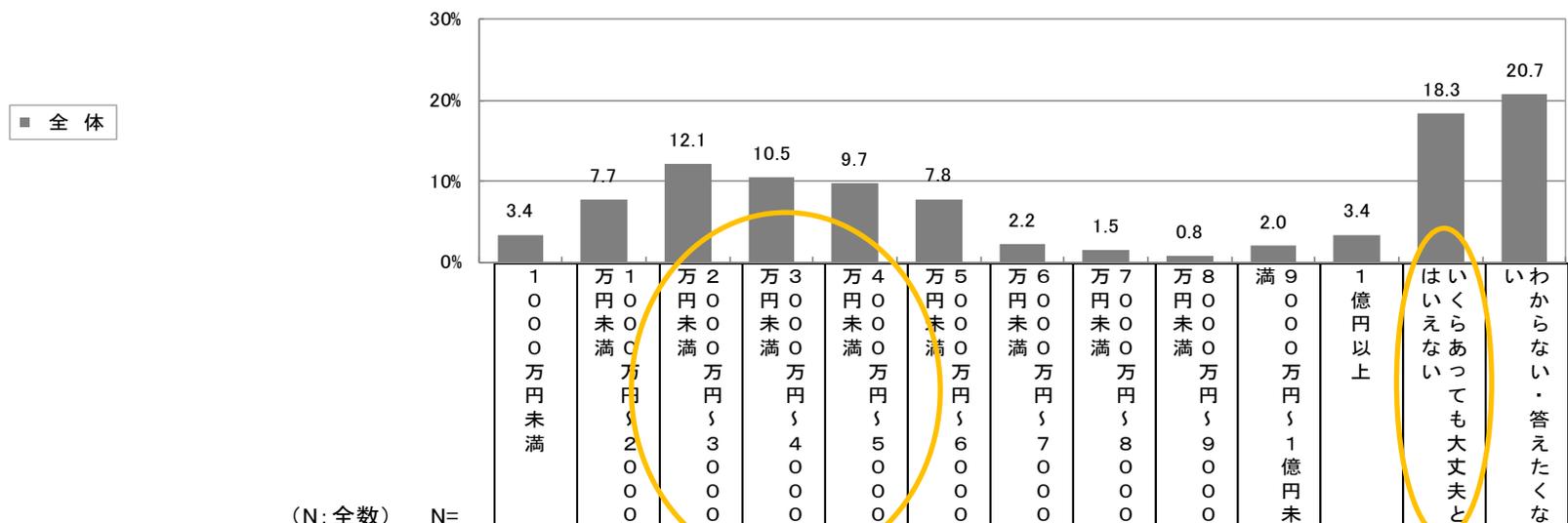


平成25年家計調査年報

老後のために必要な金額は「いくらあっても大丈夫とはいえない」

これからの老後のために必要な金額では、「いくらあっても大丈夫とはいえない」が約2割、平均で見ると全体で4,141万円。(男性4,381万円、女性3,867万円)
 「長生きリスク」に備えるためには、お金はいくらでも必要。

●今後の老後のために必要な金額

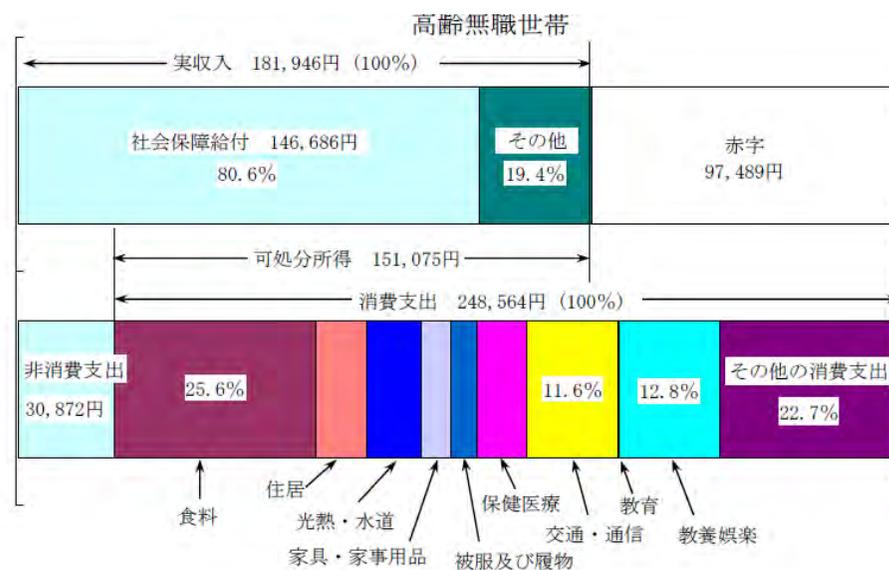
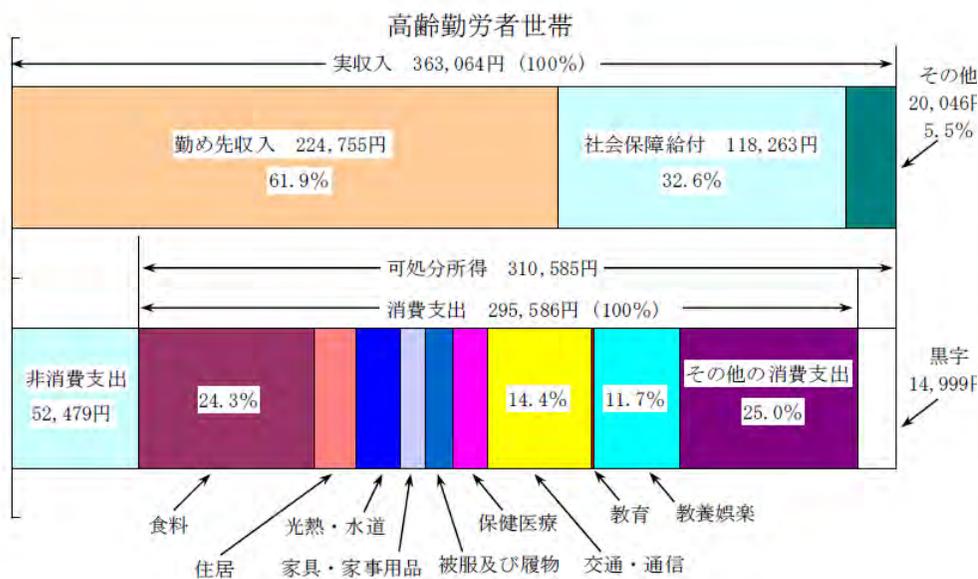


		(N: 全数)	N=	100,000万円未満	100,000円～200,000円未満	200,000円～300,000円未満	300,000円～400,000円未満	400,000円～500,000円未満	500,000円～600,000円未満	600,000円～700,000円未満	700,000円～800,000円未満	800,000円～900,000円未満	900,000円～1億円未満	1億円以上	はいくらあっても大丈夫とはいえない	わからない・答えたくない	平均 (万円)
全体		2600		3.4	7.7	12.1	10.5	9.7	7.8	2.2	1.5	0.8	2.0	3.4	18.3	20.7	4141.46
性別	男性	1300		3.3	7.0	11.8	11.6	10.6	8.8	2.2	1.9	1.2	2.4	4.4	16.8	18.1	4381.80
	女性	1300		3.5	8.5	12.5	9.5	8.8	6.8	2.2	1.1	0.4	1.5	2.4	19.7	23.3	3867.07
性×年代別	男性60代前半	650		3.5	6.3	13.1	12.2	10.8	7.8	2.2	2.0	1.7	3.2	5.4	14.9	16.9	4529.35
	男性60代後半	650		3.1	7.7	10.5	11.1	10.5	9.7	2.2	1.8	0.6	1.5	3.4	18.8	19.2	4219.60
	女性60代前半	650		4.0	8.2	13.4	9.2	8.6	7.1	1.8	1.1	0.6	1.2	2.9	20.0	21.8	3875.66
	女性60代後半	650		3.1	8.8	11.5	9.7	8.9	6.5	2.5	1.1	0.2	1.8	1.8	19.4	24.8	3858.13

出典: 電通総研「シニア×働く」調査(2015年3月実施、50代後半に働いていた60代男女 2,600名)

高齢者無職世帯は資産を切り崩して生活

高齢者勤労世帯の平均収入は月36万円。月1.5万円の黒字。
 高齢者無職世帯は月10万円弱の赤字。(資産の切り崩しで生計)

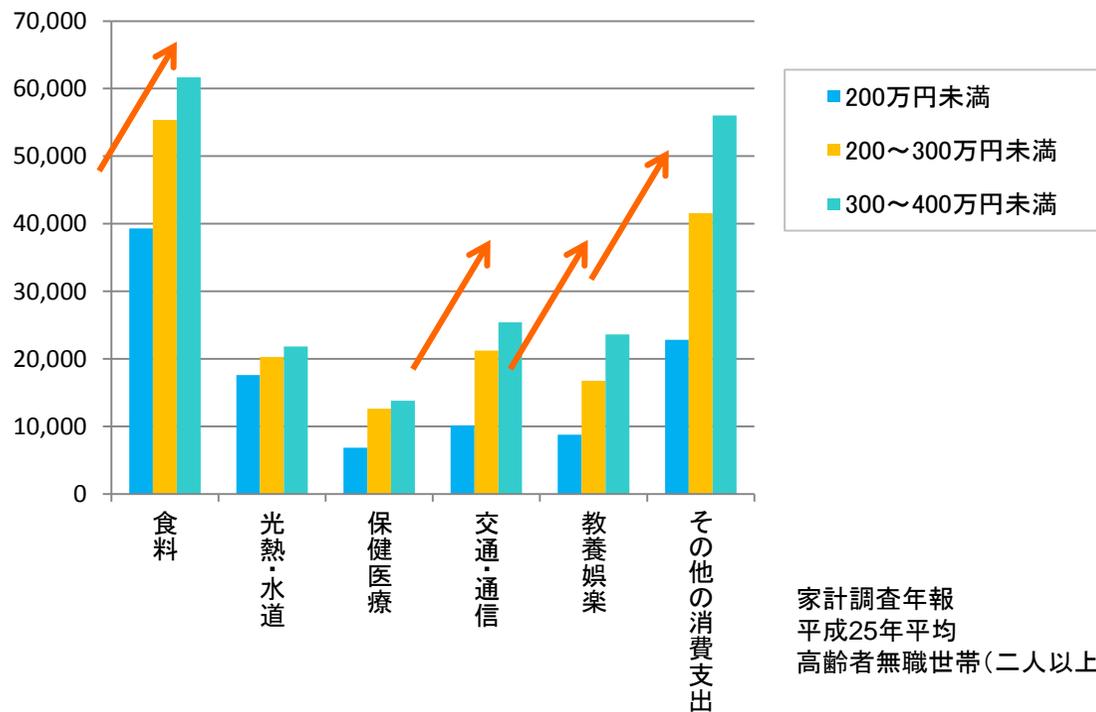
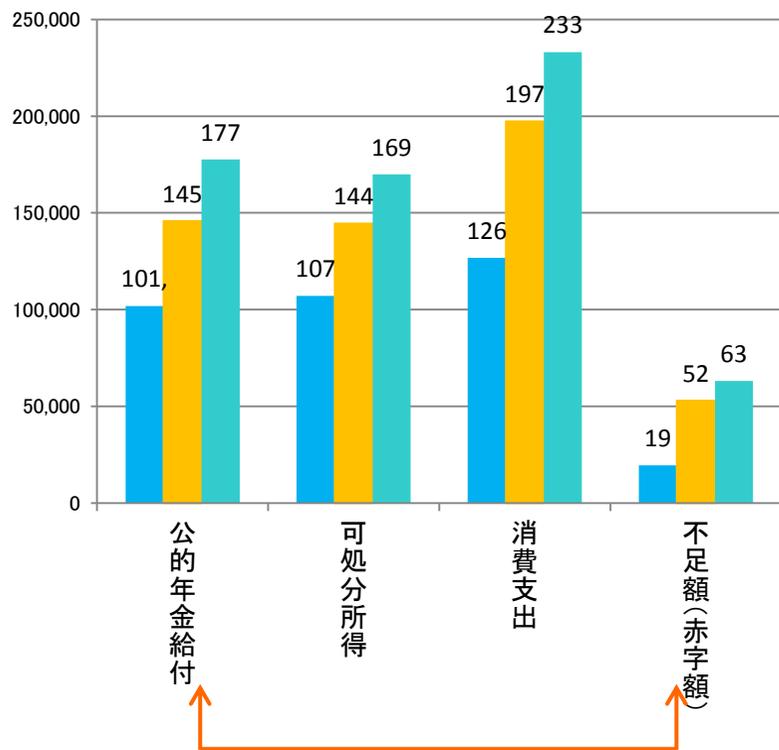


総務省統計局『全国消費実態調査』(平成21年)

年金給付の高い人ほど貯蓄額も多く、消費意欲も高い

高齢者無職世帯は貯蓄等を切り崩すことによって生計。
しかし、「給付額多寡」と「資産取り崩し額多寡」は相関関係に

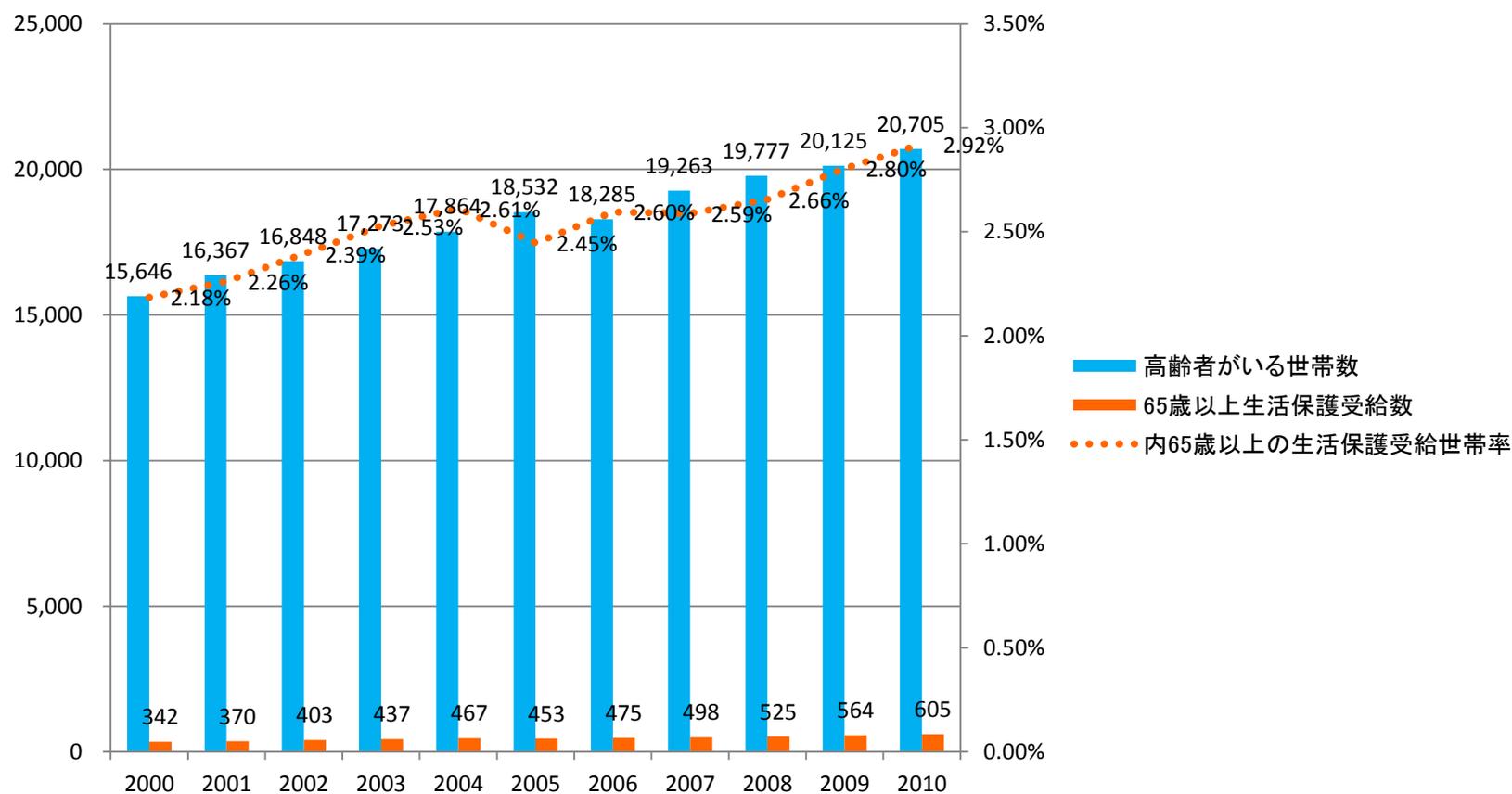
年間収入別(高齢者無職世帯)に見る消費支出状況



家計調査年報
平成25年平均
高齢者無職世帯(二人以上)

高齢者生活保護世帯の推移

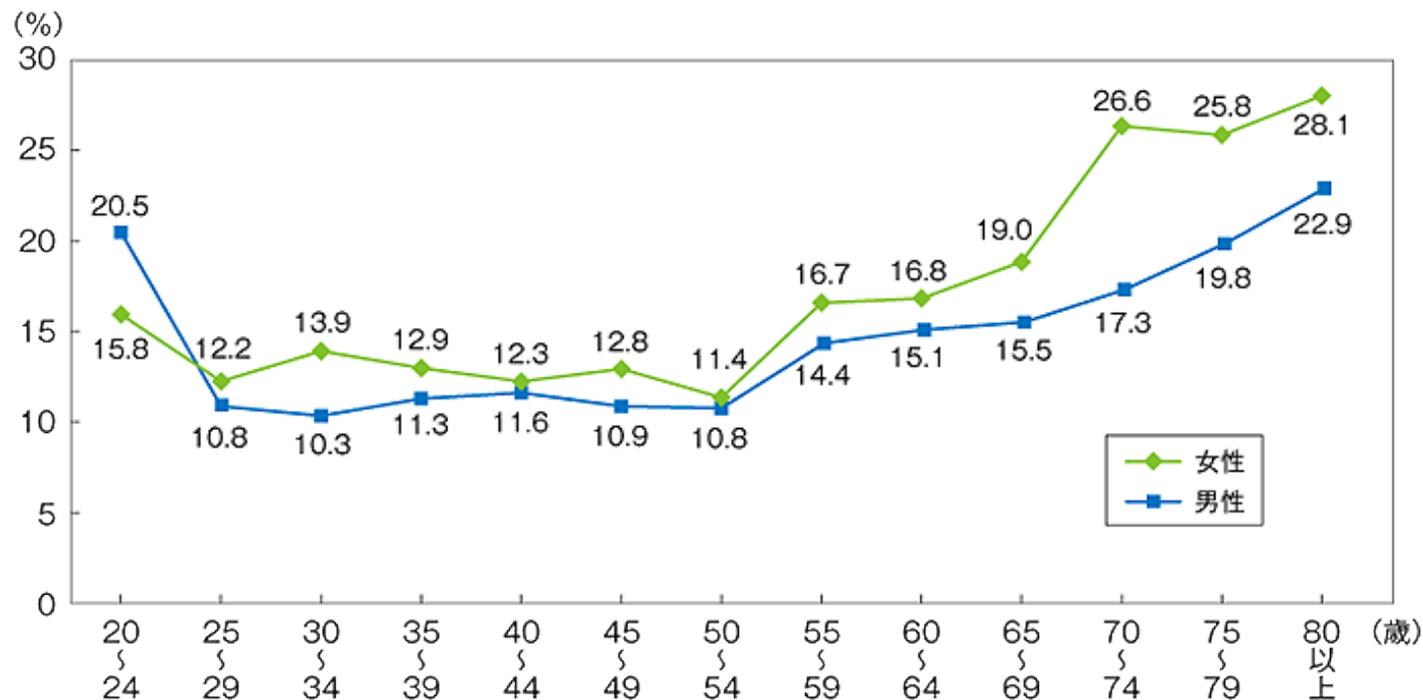
高齢者世帯の2.92%が生活保護対象世帯。10年で約1%増加(約5000世帯)



厚生労働省データより作成

男女別・年齢階層別相対的貧困率(平成19年)

50歳以上になると年齢と共に相対的貧困率が上昇。
とりわけ女性70歳以上の相対的貧困率は25%を超える。



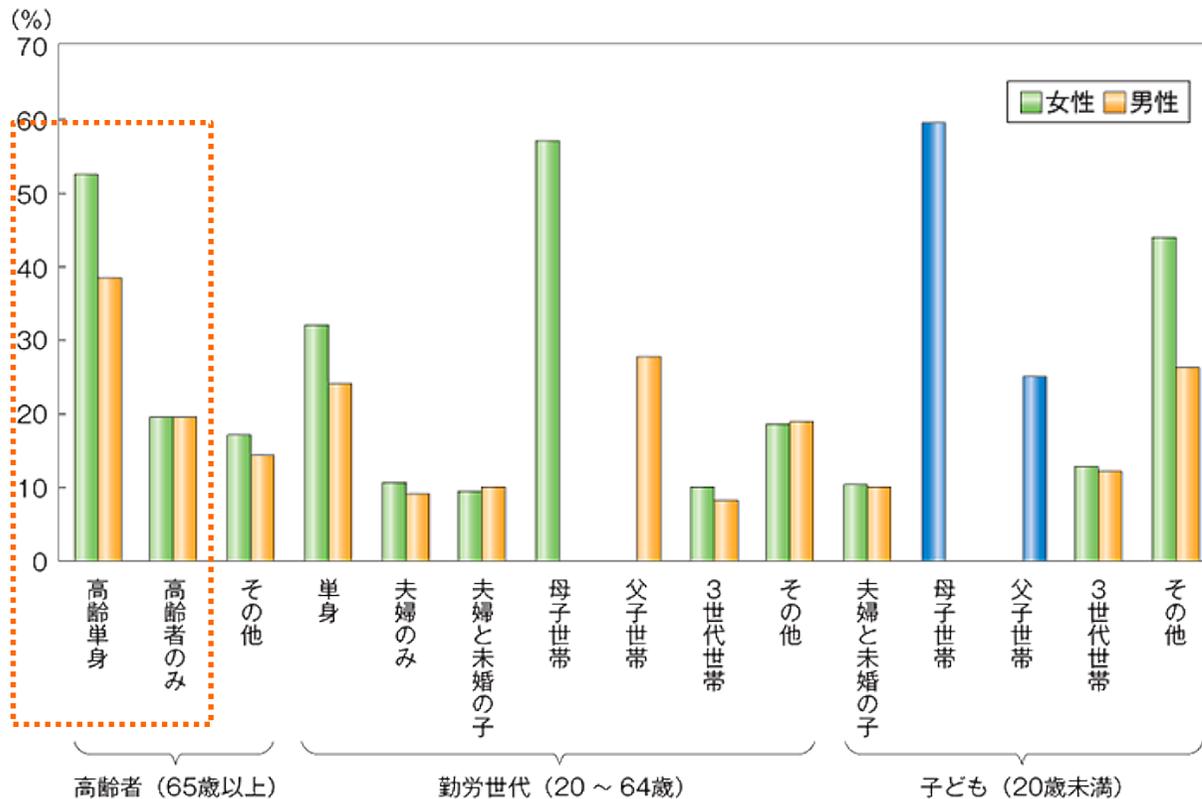
(備考) 厚生労働省「国民生活基礎調査」(平成19年)を基に、内閣府男女共同参画局「生活困難を抱える男女に関する検討会」阿部彩委員の特別集計より作成。

「相対的貧困率」=統計上の中央値の半分に満たない所得しか得られない人の割合

平成22年版男女共同社会参画白書

年代別・世帯類型別相対的貧困率(平成19年)

高齢単身女性の相対的貧困率は50%超。母子世帯(勤労世代)・子どもと並び高い



- (備考) 1. 厚生労働省「国民生活基礎調査」(平成19年)を基に内閣府男女共同参画局「生活困難を抱える男女に関する検討会」阿部彩委員の特別集計より作成。
 2. 父子世帯は客体が少ないため、数値の使用には注意を要する。
 3. 母子世帯、父子世帯の子ども(20歳未満)は男女別ではなく、男女合計値。
 4. 高年齢者のみ世帯とは、単身高齢者世帯を除く高年齢者のみで構成される世帯。

富裕層シニア向け商品・サービス

「孫消費」には積極的な高齢者、富裕層高齢者は積極的に子・孫に資産移転。



ランドセル、学習机 商戦前倒し

ランドセル、学習机の商戦前倒しは、今年後半にピークを迎える見込み。ランドセルは、今年後半にピークを迎える見込み。ランドセルは、今年後半にピークを迎える見込み。

ランドセルや学習机の商戦前倒しは、今年後半にピークを迎える見込み。ランドセルは、今年後半にピークを迎える見込み。

「孫消費」帰省で活気

内益はヤマ場 3世代来店

「孫消費」は、高齢者が孫のために消費する行為を指す。孫消費は、高齢者が孫のために消費する行為を指す。孫消費は、高齢者が孫のために消費する行為を指す。

顧客ニーズに応えて

内訳は、2019年「信託」は契約件数110億。3月投入の「すこ」安万円で金額が約520億。3月投入の「すこ」安万円で金額が約520億。

三菱UFJ信託 次世代支援信託が1兆円突破

遺言代用や教育贈与など

三菱UFJ信託銀行が展開する「次世代支援信託」4商品の累計契約金額が、7月上旬に1兆円を突破した。高齢社会の進展や相続・贈与の改正を相続への関心が高まるなか、遺言代用信託、すこ安心信託や教育資金贈与信託「まごよこ」が、暦年贈与信託「おくるい」を、そして「すこ」安心信託が、次世代支援信託として位置づけ、全店で推進。信託銀行では初めて「来店」に選んだ。

約4千億円まで増加。開の4商品合計の総額は約700億円に達した。約4千億円まで増加。開の4商品合計の総額は約700億円に達した。約4千億円まで増加。開の4商品合計の総額は約700億円に達した。

●教育資金贈与信託、暦年贈与信託

タイタニック号の3倍 超豪華客船

アペノ消費 シニア大航海時代



船内に設けられたショッピングモールのよきな目抜き通り「ロイヤルプロムナード」



海から照り返す日差しが、浮かぶ船の甲板を照らす。豪華客船の代表として、タイタニック号の約3倍の長さ、約3万トン、約3000客を収容する。約3倍の長さ、約3万トン、約3000客を収容する。

タイタニック号の約3倍の長さ、約3万トン、約3000客を収容する。タイタニック号の約3倍の長さ、約3万トン、約3000客を収容する。

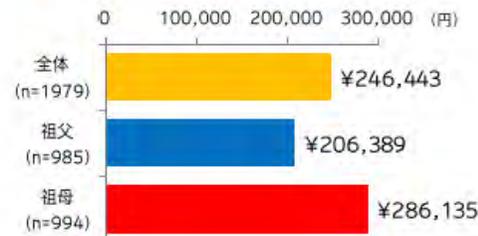
●孫との3世代旅行

●孫関連消費

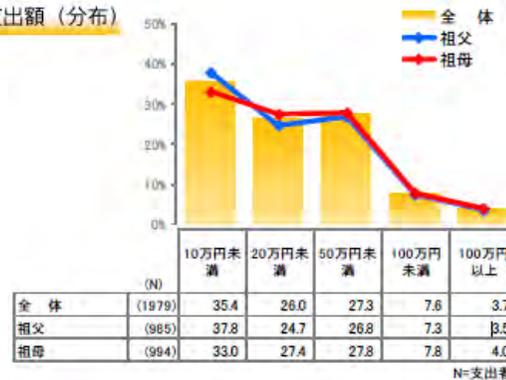
孫のための支出状況

- ◆祖父母の孫のための年間支出額は、**24万6000円**。祖父20万6000円、祖母28万6000円。
- ◆「孫との旅行」「お出かけ」は大きな孫消費チャンス。だが、特にイベントがなくても、**祖父母は孫と一緒に過ごすシーンで支出している**。

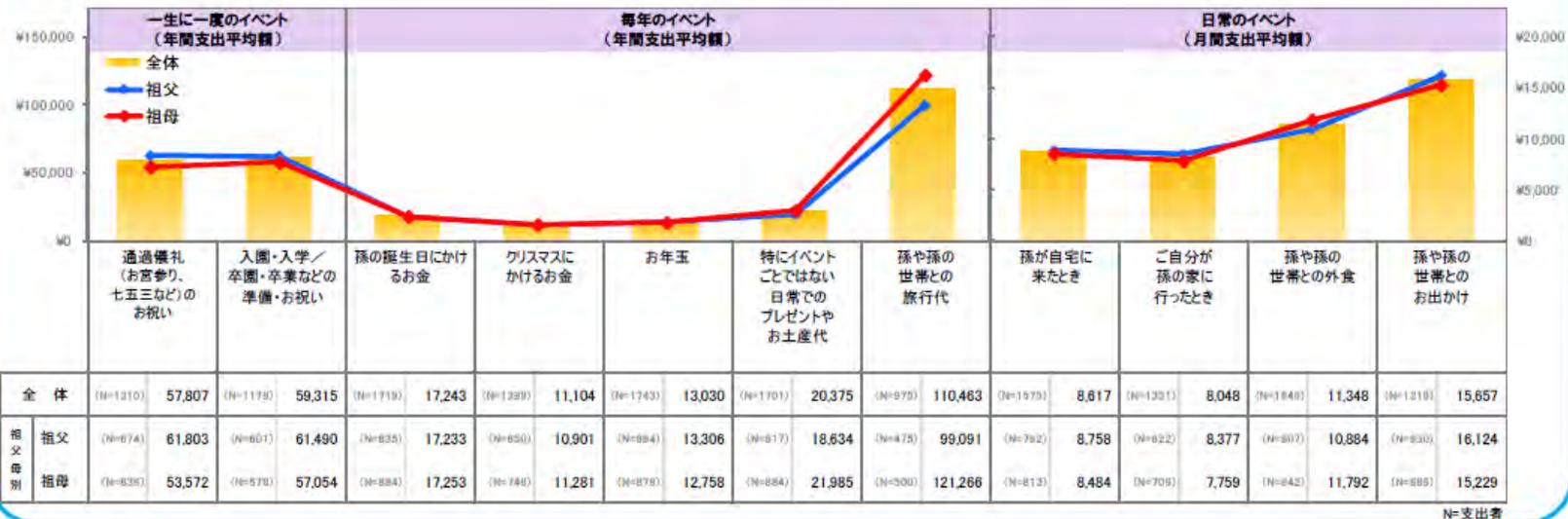
孫への年間支出額（平均）



孫への年間支出額（分布）



孫へのシーン別平均支出金額（平均）

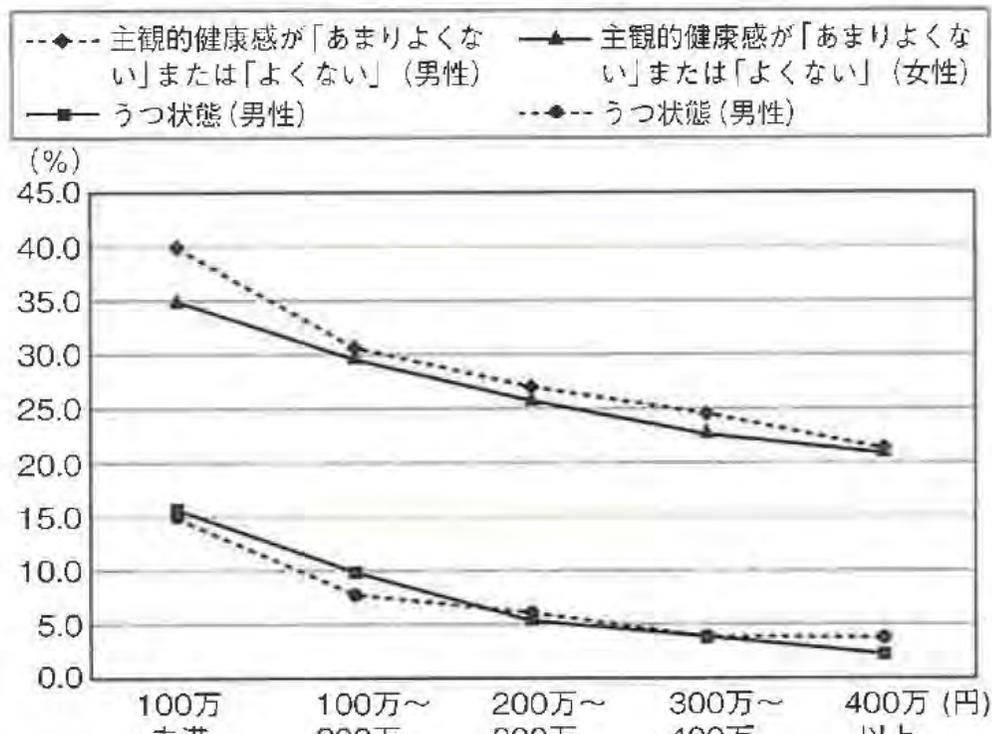


「電通育G調査」(2013年3月): 対象: 50代以上で、この1年以内に会った(同居含)小学生以下の孫がある人2000人
調査地域: 関東(1都6県)

所得階級と健康状態

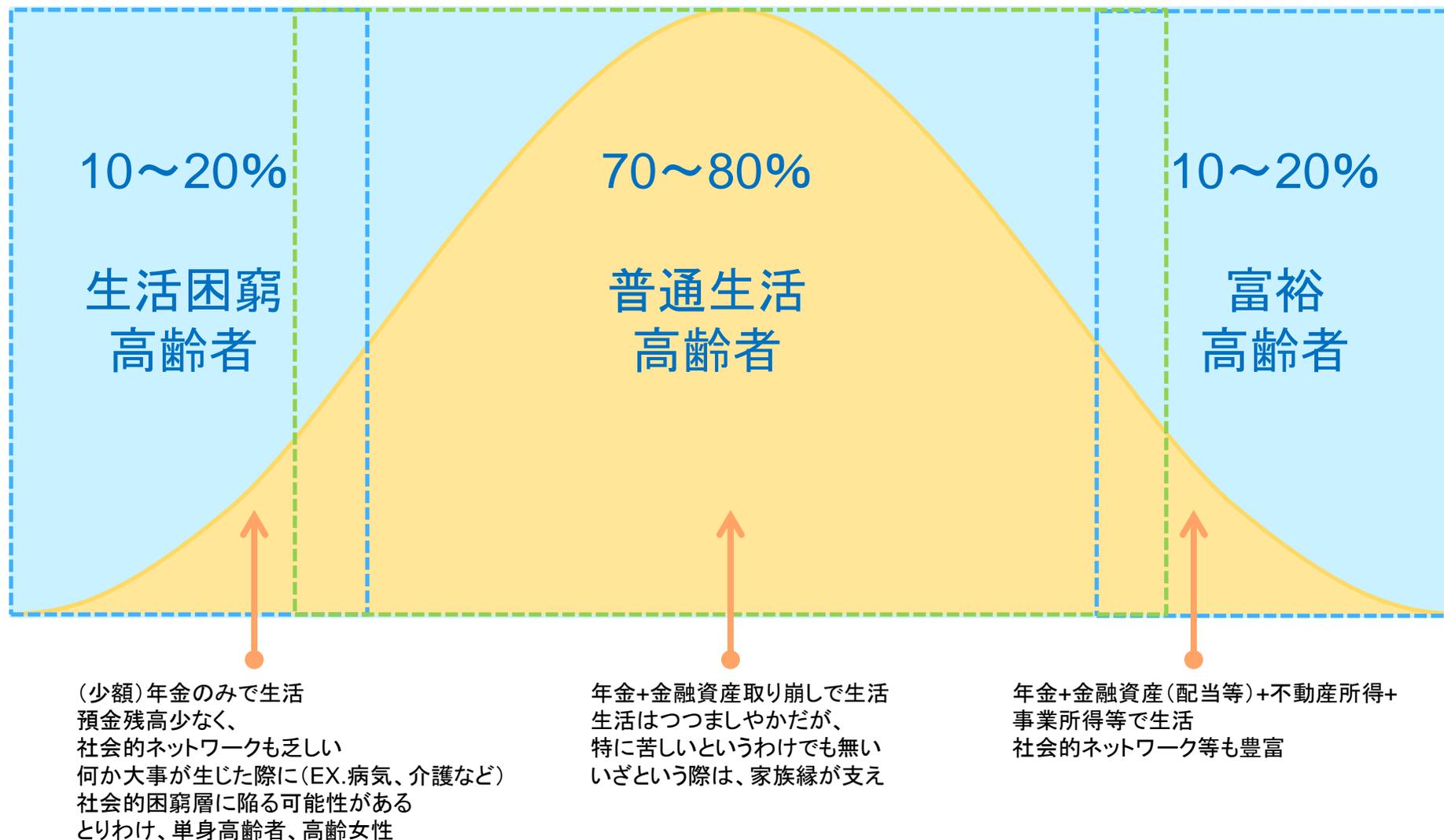
所得が低いほど、主観的健康感、客観的うつ状態共に高くなる傾向。

●高齢者の所得階級と健康状態(3県15自治体3万人の健康状態と所得階級の相関)



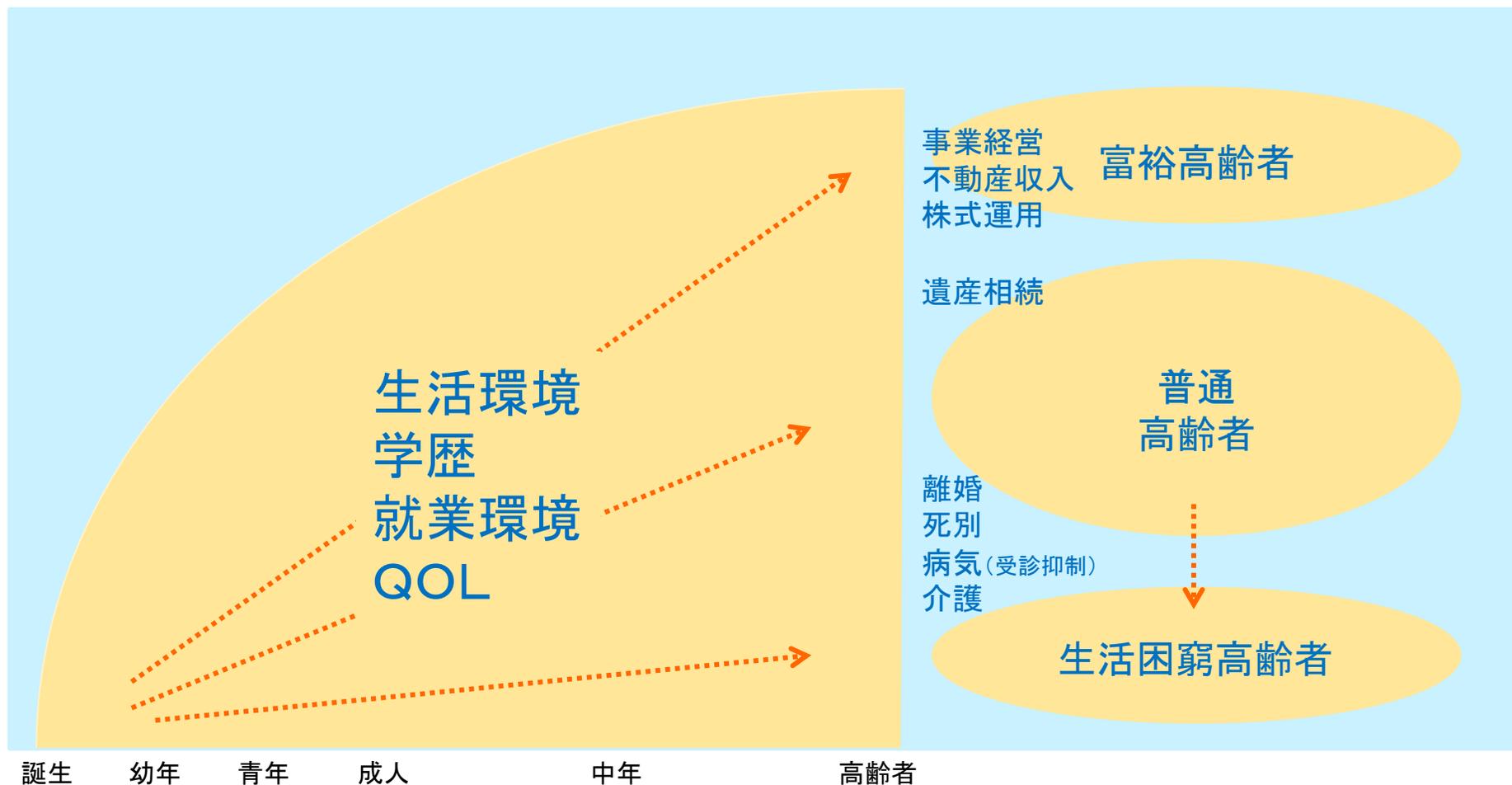
阿部彩『弱者の居場所がない社会』(講談社現代新書)
近藤克典編集『検証「健康格差社会」』(医学書院)より筆者が加工

高齢者生活水準分布(仮説)



電通総研作成

高齢期のQOLを規定するもの



- ①「高齢者」の内実は多種多様。マクロ的把握は禁物
- ②富裕高齢者を除く、多くの高齢者は年金+資産切り崩しで生計。
但し、その内実にも生活格差が存在
- ③特に単身高齢者(女性)は貧困層に陥る可能性大
- ④資産(ストック)は多いが「長生きリスク」に備えたい意識が高く、孫などの一部インセンティブを除き消費意識低い
- ⑤高齢期になっても「働きつづけられる市場」をつくることが、消費意欲の向上と健康寿命の延伸をもたらす

ありがとうございました。